

俳句

ふく  
だ  
りよう  
てい  
福田蓼汀



萩市  
(1905～1988)

福田蓼汀（本名、幹雄）は萩市出身の福田彦助陸軍中將の長男として生まれた。

東北帝国大学在学中に小宮豊隆教授の紹介状により『ホトトギス』の高浜虚子門に加わる。とくに同世代の中村草田男、松本たかし等と親交を結び、みずからも『山火』を主宰した。写生を尊重しつつも山岳俳句に独自の句境をひらく。と同時に、昭和四十五年次男善明の奥黒部遭難により、涙の絶唱「秋風挽歌」三十句を作り、第四回蛇笏賞を受賞した。だが重なる探索行にも遺体はついに発見できなかった。

一方、俳人協会設立に参画し、長年幹事・理事を務め、没時には副会長の要職にあつた。  
(岡田日郎)

【主な著作】

句集『山火』（かに書房、昭和23年）

句集『秋風挽歌』（角川書店、昭和45年）

『福田蓼汀全句集』（牧羊社、昭和59年）